赤川先生の思い出

M⑫　野村稔郎

赤川先生に 12 回生が教わったのは工学部が六甲に移転したばかりの頃です。先生は 30 歳半ば、新進気鋭の教授でした。ご自身の著書「蒸気工学」をテキストとした講義は「ファイトで進む 1 時限 20 ページ」のスピード感あふれるものでした。

9 人が 6 講座配属となりましたが（全員姫路分校）、その時の選択が、以後 50 年続く赤川ゼミ生という絆の原点となりました。

テーマは何れも実験研究で装置、計器類は、ほぼ手作りでした。“工夫して目的に合う装置を作り、実験し、データーを丹念に取り、それを纏める”という大切な研究態度を強烈に教わりました。「丹念に」という言葉を先生からしばしばお聞きしました。

活発なゼミで、夙川の先生のお宅に研究室全員をお招き頂くなど学生とも良くお付き合い頂き、面倒も良く見て頂きました。ハイキングなどには先生も参加されました。

当時、二相流の会が毎月、関西の各大学、企業の研究室持ち回りで開かれていました。先生はゼミ生にも聴講参加を勧められ、内容理解はともかく研究会というものの厳しい空気を実感しました。

就職も決まった頃、修士課程が出来る事になり、急きょ進学する事になりました。先生には企業との話し合いから在学中のアルバイト紹介などまで大変御世話になりました。

卒業後も教えを請いに何度も伺いました。先生には気さくに迎えていただき、好奇心旺盛に話をお聞き下さり、ご見解を話されました。問題点を的確にご指摘されて解決に導いて頂き、同僚共々感服したものです。

ご指導頂いた頃の思い出につき感謝を込めて記し、先生を偲ばせて頂きます。

赤川先生、本当に長い間有難う御座いました。安らかにお眠りください。

合掌